



SOMPO
ホールディングス

保険の先へ、挑む。

そんぽ24の現状2017



はじめに

日頃より、皆さまのご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、当社により良い経営への取組み、事業概要および財務状況などをわかりやすくご紹介させていただくため、本誌「そんぽ24の現状2017」を作成いたしました。

本誌が、当社をご理解いただくうえで、少しでもお役に立てば幸いです。

今後とも温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

当社のオリジナル・キャラクター「ハナコアラ」は、お客さまにとって親しみやすい保険会社になりたいという想いから生まれました。



ごあいさつ

日頃は皆さま方より格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

2016年度は、熊本地震や糸魚川大規模火災など、大きな災害により各地で多くの被害が生まれました。被害を受けられた皆さまに心からお見舞い申し上げます。

2016年度も多くのお客さまにご契約をいただき、また、業務運営の効率化を進めたことなどにより、2015年度に引き続き黒字決算を達成することができました。

これもひとえに皆さまのご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

当社は、顔の見える身近な通販型損保として、媒介代理店を通じて「そんぼ24自動車保険」をお客さまに広くご案内しています。また、万一の事故の際には、損害保険ジャパン日本興亜の全国ネットワークと連携し、迅速かつきめ細やかな事故解決サービスを提供することで、そんぼ24だからできる安心をお届けしています。

2016年度は、お客さまからのご要望が多かった「個人賠償責任特約」の新設、「見やすく、わかりやすく」する保険証券リニューアルの実施、耳や言葉の不自由なお客さまのための専用FAXによる事故受付の開始、保険料払込みの選択肢を広げる「コンビニ払(スマートピット)」の導入など、お客さまの利便性向上に寄与する、お客さま目線での商品・サービスの充実に取り組みました。

今後も、お客さまと当社を直接つなぐコールセンターやウェブサイト寄せられたお客さまからのご意見・ご要望を、さらなる品質向上に向けた原動力とし、役職員全員が一丸となってお客さまにより一層ご満足いただけるようにサービスの拡充や品質改善に全力で取り組んでまいります。



一方、法令等遵守、リスク管理、顧客情報保護、迅速かつ適時・適切な保険金のお支払いなどの内部管理態勢についても常に改善を図り、経営の健全性・透明性をより一層高めることで、お客さまに真に信頼いただける保険会社を目指してまいります。

本誌でも掲載させていただいている「そんぼ24宣言」は、当社役職員一同から、お客さまをはじめ、代理店の皆さま、すべてのステークホルダーの皆さまへのメッセージです。当社では、これからも全役職員が「そんぼ24宣言」に基づき、皆さまお一人おひとりとの絆を大切に、身近で親しみやすく頼りになる保険会社であり続けるよう、誠心誠意努力してまいります。

今後とも当社へのなお一層のご愛顧、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

そんぼ24 損害保険株式会社

取締役社長 **永野 寿幸**

代表的な経営指標等

SOMPOホールディングスグループの概要	4
----------------------	---

会社の現状

I 会社の概要および組織

1. そんぽ24宣言	6
2. 会社の沿革	7
3. 組織	8
4. 株主・株式の状況	9
5. 役員および従業員の状況	10
6. 業務または事務の受委託・ 子会社等の概況	11
7. 会社の特色	11
8. トピックス	14
9. 環境保全活動	15
10. 社会貢献活動	16

II 主要な業務の内容

1. 取扱商品	18
2. 保険のしくみ	20
3. 約款	20
4. 保険料	21
5. 保険募集	21
6. 保険金のお支払い	23
7. トラブル時の各種サービス	24
8. お客さまとのコミュニケーション	26

III 健全な経営

1. コーポレート・ガバナンス態勢	30
2. 内部統制	30
3. 戦略的リスク経営(ERM)	33
4. コンプライアンス(法令等遵守)態勢	35
5. 監査・検査態勢	35
6. お客さま情報の保護	36
7. 反社会的勢力への対応	41
8. 利益相反取引管理態勢	42

業績のお知らせ

I 主要な業務に関する事項

1. 当期の業績概況	44
2. 直近の5事業年度における 主要な業務の状況を示す指標	46
3. 業務の状況を示す指標等	47

II 財産の状況

1. 計算書類等	60
2. リスク管理債権	66
3. 債務者区分に基づいて区分された債権	66
4. 単体ソルベンシー・マージン比率	67
5. 時価情報等	69

財務諸表の適正性、および財務諸表作成に係る
内部監査の有効性

	69
--	----

損害保険用語の解説

	70
--	----

本誌は、保険業法第111条に基づいて作成しているディスクロージャー資料です。

代表的な経営指標等

	2015年度	2016年度	用語説明
正味収入保険料	13,725百万円	13,312百万円	ご契約者から受領した保険料に、保険金支払負担の平均化・分散化を図るための他の保険会社との再保険契約のやり取りを加減した金額であり、売上規模を示す指標です。
正味損害率	61.1%	62.4%	正味収入保険料に対する正味支払保険金および損害調査費の割合のことで、保険会社の経営分析や保険料率の算出に用いられるものです。
正味事業費率	33.9%	31.8%	正味収入保険料に対する保険事業上の経費の割合のことで、正味損害率と同様に、保険会社の経営分析や保険料率の算出に用いられるものです。この経費には、諸手数料と営業費及び一般管理費のうちの保険引受に係る金額が含まれます。
保険引受利益	968百万円	1,591百万円	正味収入保険料などの保険引受収益から、保険金・損害調査費などの保険引受費用と保険引受に係る営業費及び一般管理費を控除し、その他収支を加減したもので、保険本業での最終的な損益を示すものです。
経常利益	970百万円	1,608百万円	正味収入保険料、利息及び配当金収入、有価証券売却益などの経常収益から、正味支払保険金、有価証券売却損、営業費及び一般管理費などの経常費用を差し引いたもので、経常的に発生する取引から生じた損益を示すものです。
当期純利益	858百万円	1,715百万円	上記の経常利益に固定資産処分損益や価格変動準備金繰入額などの特別損益、法人税及び住民税、法人税等調整額を加減したもので、事業年度に発生した全取引によって生じた損益を示すものです。
単体 ソルベンシー・ マージン比率	640.6%	833.0%	巨大災害の発生や、保有資産の大幅な価格下落など、通常の予測を超えて発生しうる危険に対する、資本金・準備金等の支払余力の割合を示す指標です。行政当局が保険会社を監督する際に、経営の健全性を判断するために活用されており、この数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされています。
総資産額	22,748百万円	23,696百万円	損害保険会社が保有する資産の総額で、具体的には貸借対照表上の「資産の部合計」です。損害保険会社の資産規模を示すものです。
純資産額	5,890百万円	7,586百万円	上記の総資産額から、責任準備金などの負債額を控除したもので、具体的には貸借対照表上の「純資産の部合計」です。損害保険会社の担保力を示すものです。
その他有価証券 評価差額	40百万円	13百万円	「その他有価証券」の時価評価後の金額と時価評価前の金額の差額を指します。財務諸表上は、この評価差額から税金相当額を控除した金額を、貸借対照表の純資産の部に「その他有価証券評価差額金」として計上しています。
リスク管理債権	該当なし	該当なし	貸付金のうち、保険業法施行規則第59条の2第1項第5号口に基づき開示している不良債権額です。貸付金の価値の毀損の危険性、回収の危険性などに応じて、「破綻先債権」、「延滞債権」、「3か月以上延滞債権」、「貸付条件緩和債権」の4つに区分されています。
資産自己査定 結果における 分類額計	一百万円	一百万円	損害保険会社としての資産の健全化を図るためには、不良債権などについて適切な償却・引当等の処理が必要となります。資産自己査定とはこの処理を適切に行うために、保有資産の価値の毀損の危険性などに応じて、自らで保有資産を分類区分することであり、債務者の状況および債権の回収可能性の評価により、資産を回収リスクの低い方からⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの4段階に分類します。このうち、Ⅰ分類は回収の危険性または価値の毀損の可能性において問題のない資産です。Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ分類は何らかの回収の危険性または価値の毀損の可能性のある資産であり、これらの合計が「分類額」です。

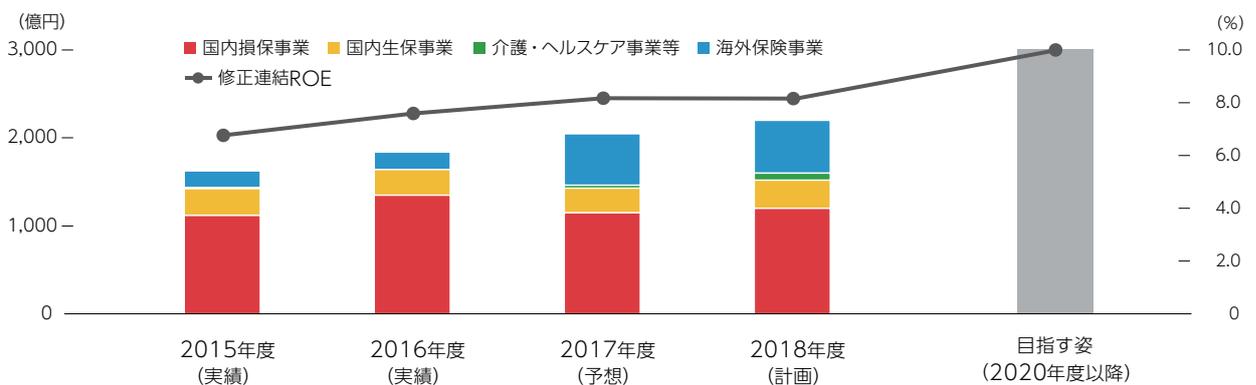
SOMPOホールディングスグループの概要

中期経営計画

グループ計画

SOMPOホールディングスは、2016年5月に中期経営計画を公表しました。

中期経営計画では、「お客様の安心・安全・健康に資する最高品質のサービスをご提供する」というグループ経営理念の具現化に向けて、各事業の魅力を徹底的に高めると同時に、デジタル技術を活用したサービスの拡充やお客様接点の強化、事業間連携などに取り組み、「安心・安全・健康のテーマパーク」の構築を進めています。将来的にはグローバルトップ10水準の規模および資本効率の実現を目指して、計画の折り返し地点となる2018年度に定量的な経営目標を設定しました。



2016年11月に2018年度のグループ経営数値目標を上方修正し、「修正連結利益2,200億円～2,300億円、修正連結ROE8%以上」としました。

中期経営計画の初年度である2016年度は、各事業の着実な取組みの結果、修正連結利益、修正連結ROEともに目標を上回る成果をあげました。

また、SOMPOインターナショナル(エンデュランス)の買収、介護事業の事業基盤の確立、デジタル戦略の本格化に向けた「SOMPO Digital Lab」の設置、敏捷かつ柔軟な意思決定を行うための事業オーナー制の導入など、さまざまな取組みを具現化しています。引き続き、中期経営計画で目指す姿を早期に実現するための取組みを着実に実行していきます。



計画を実現するグループ会社

SOMPOホールディングスグループは、国内損保事業、国内生保事業、介護・ヘルスケア事業、海外保険事業やアセットマネジメント、住宅リフォームなどの戦略事業を展開しています。

国内損保事業

価値創造イノベーション
～最もお客さまに支持される損害保険会社へ～

修正利益計画(2018年度): **1,200億円以上**

- ビジネスプロセスとシステム基盤の刷新
- デジタルとヒトを融合したお客さま接点の構築
- 質を伴った成長



そんぽ24



国内生保事業

「健康応援企業」へ進化
～第二の創業期～

修正利益計画(2018年度): **320億円以上**

- 健康応援企業へ進化
- 商品・サービス・チャネル三位一体のビジネスモデル



介護・ヘルスケア事業等

「世界に誇れる豊かな長寿国日本」の
実現に貢献

修正利益計画(2018年度): **80億円以上**

- 高齢者の方の尊厳・自立と安心・安全の両立
- 介護・ヘルスケアの総合サービスの提供

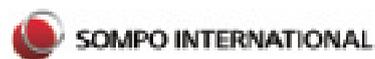


海外保険事業

着実なオーガニック成長、
規律あるM&Aによる成長加速

修正利益計画(2018年度): **600億円以上**

- 企業分野における真に統合されたグローバル保険事業プラットフォームの構築
- リテール分野における市場平均を上回るオーガニック成長



戦略
事業

